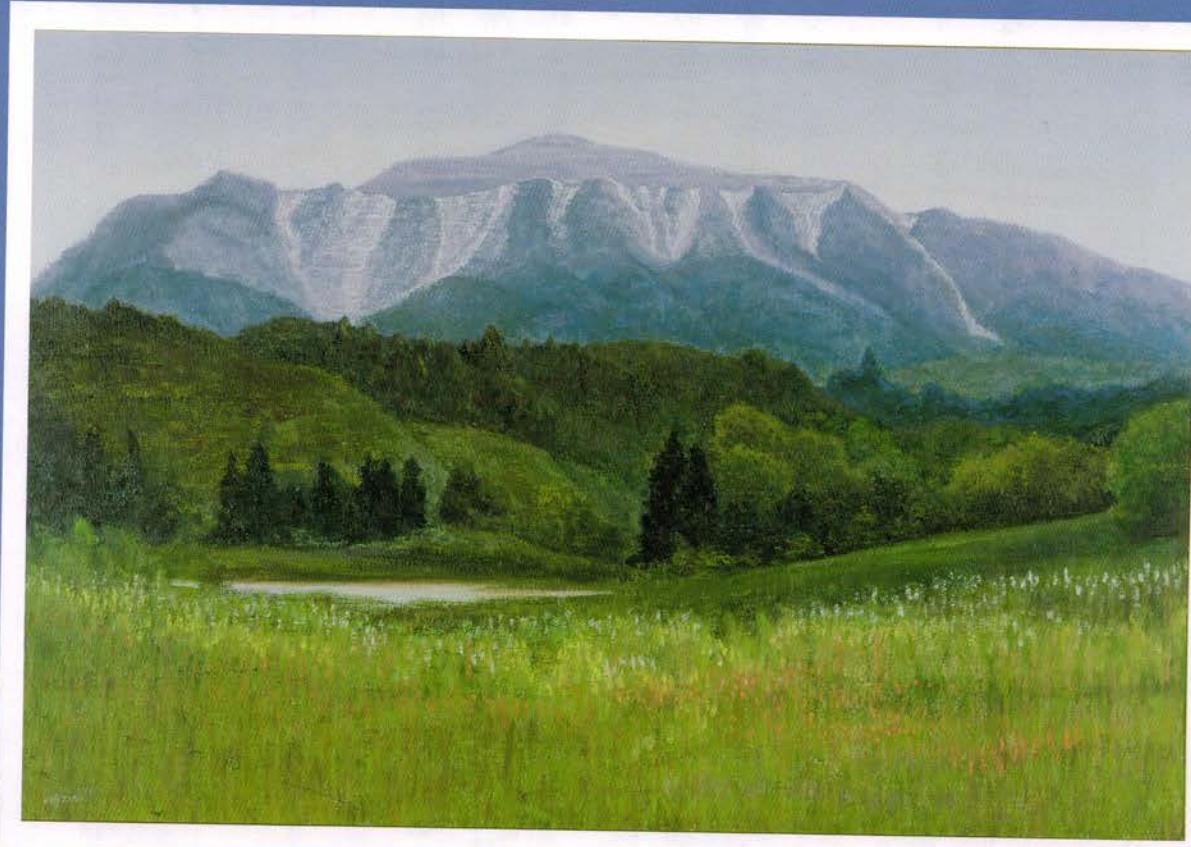


社乃杜

秩父神社社報
柞乃杜(ははそのもり)

第 51 号

平成27年7月20日
(川瀬祭)



島傳ひ行え

眞子が手離り

愛しけ

大君の命畏み

川瀬祭の祈り

今年も無事に梅雨明けを迎えて、盛夏の川瀬祭を盛大に執行することになりました。

一年の上半期に重ねた穢れを、六月の三十日（晦日）に「水無月の大祓」式で祓い清め、一年の下半期に備えて地域のさまざまな災厄を未然に防ぐべき地域の活力を養うこと。これが、われらが夏祭り川瀬祭の眼目です。

七月十九日の宵宮では、全町八基の笠鉾屋台を曳き揃えて「天王柱立て神事」を執行、血氣盛んな若者たちと元気な子供たちが、神威あらたかな素戔鳴尊をお迎えした後、翌日の本祭では、荒川への神幸祭で本社神輿を清流で洗い清めるのです。

「日本の祭り」を一言で言い表すとすれば、それは「生まれ清まり」の祈り。

災いの元になる日ごろの穢れを清めに清めて、自然の生気に浴する祈りなのです。

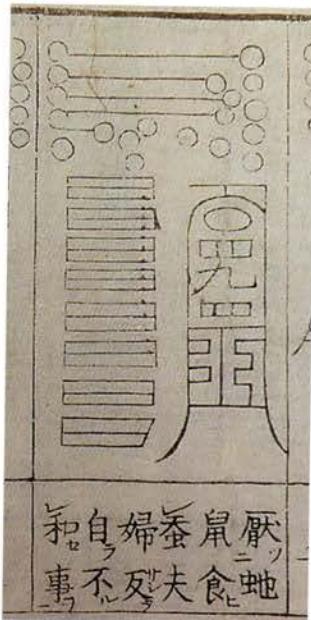
解説 秩父神社(50)

権補宜
甲田豊治

——妙見信仰七百年（上）——

前号では、様々な妙見御姿・
像の歴史的展開を見てきた。

大祭（夜祭）期間の十二月四日養蚕・絹織物関係者が参列し「蚕糸祭」が斎行されている。夜祭は別名「お蚕祭り」とも称されるほど秩父と養蚕・絹には古い歴史がある。古代「知々夫絹」と称し朝廷に献上されたと言う伝承や、鎌倉時代には



蚕守護の靈符

○九)を解説している。興味のある方は是非ご覧頂きたい。

詰された宝永年間であるが、この数年日本で起きているような地震・噴火といった天災が至る所で起こつた時代であった。その混乱した時代に、京都出雲路十念寺澤了が二冊の本を上梓している。『鎮宅靈符縁起集説・修法』宝永四年（一七〇七）である。この内容は、国内に伝わる様々な「妙見・靈符」の縁起や修法、更には七十二符の意味を解説しており、その中に極めて不思議な「蚕」にまつわる靈符を確認することができ



上田埼玉県知事に靈符を解説する薦田宮司

実は平成二十六年三月、秋越・冰川神社、そしてNPO法人「川越着物さんぽ」による「さいたま絹文化研究会」が発足。それぞれに特色ある秩父・高麗・川越に伝わる絹の文化・信仰を再確認し、現在から未来へと幅広く活動を展開する研究会である。その発足講演会において、名譽会長である蘭田宮司が、来賓である上田埼玉県知事に、秩父の信仰展示ブースにおいて森玄黄斎作「太上神仙鎮宅靈符」(当社所蔵)を解説。知事も大変興味深そうにこの蚕の靈符について質問され、関心を持たれた様子であつた。

更に当社には、明治時代の秩父絹織物全盛期の様子を今に伝える貴重史料として、「漱盥器」(手水鉢)がある。次回その詳細について述べてみたいと思う。

故秩父宮妃勢津子殿下二十年祭を迎えて
ご生前に浴したご遺徳の想い出

秩父宮会会長
秩父神社宮司 蘭田 稔

今年は大東亜戦争終結七〇年ということで全国的な数々の記念行事が開催されていますが、われらが郷土、秩父にとりましては、近代にご皇族との格別なご神縁を賜わりました旧の「秩父宮家」をお偲び申し上げる節目の年でもあることを忘れるることはできません。

現に今年に入つては、正月四日が秩父宮雍仁親王殿下御薨去以来六十二年の祥月命日ということで、かつて同宮家にお仕えしてご高齢を迎えた関係各位を中心には祭典が豊島岡墓地で斎行され、私ども秩父宮会の役員も参列させていただきました。

また来たる八月二十五日は、勢津子妃殿下が平成七年に帰幽されて二十年目の祥月命日に当たりますので、やはり同墓地内で丁重な節目の祭典が執行され、私どもも参列を許されることになりました。

そこでこの機会を頂戴して、やや私的で恐縮ながら勢津子妃殿下との有り難いご縁の一端をご紹介してみたいと思います。

まず一つは、今から思いますと冷汗を覚えるかのような、しかし我が家の誇らしい幸運でありますが、昭和三十年十月二十七日に妃殿下ご一行が来秩され、翌朝に第一回の秩父宮記念が体育大会にご臨席されるために、何とか拙宅でのご宿泊を賜わ



の御宿泊での記念写真

たことでした。なにしろ一介の草莽神主の貧乏屋敷のことで大しきおもてなしも叶わず、せめて家族のご接待でお心安くお泊り頂くことに徹したことが幸いしたか、妃殿下には殊のほかご機嫌麗しくお過ごし頂いたようで、翌年四月七日ご来秩にも再度お泊り頂くなど、遺された記念写真にも妃殿下を囲む微笑ましい家族の様子が写されています。

二つには、私自身の忘れ難く妃殿下に賜わった懐かしい想い出があります。

それは、平成元年の四月五日のこと、岡らずも秩父神社の宮司職を拝命する辞令を東京・代々木の神社本庁で拝領した後、その帰途に早速、随行の淺見武史権禰宜（後の権宮司）と共に青山の秩父宮邸に参上して、その旨をご奉告したことがありました。

当日は陽春の暖かい朝のことでしたが、山口峯生宮務官のご案内でお接間に招かれますと、ほどなく妃殿下がお出ましになり、すでに何度か拝顔の榮を賜わつたこともあつて何時ものように快活なご挨拶を拝し、すぐさま秩父の陽気と先代宮司の近況などお応え申した後、いささかユーモアを交えて宮司交替の成り行きをお話させていただいたのでした。

そこで、まず冒頭に申し上げることは、今回の宮司交替が、父親である先代宮司による息子の私への、いわば一種のクーデターだという説明でした。案の定、妃殿下はこの型破りの表現に驚かれて御身を乗り出されたので、あとは首尾よく以下のご奉告を楽しそうに聞いて下さったのです。

実は肝心の日本人が、當時奉職していた國學院大學から頂戴した一年間の研究休暇を利用しての歐州遊学から帰国した日の、まさに四月一日付を以て秩父神社の宮司職を先代の父親から引き継いだのだということを、当日、成田空港まで出迎えてくれた教え子の本成

秩父宮会事業報告

権利宣 伏見 博樹

立夏を過ぎ夏の足音を感じ始めた五月二十五・二十六日の両日、恒例の秩父宮会研修旅行に同行させて頂きました。

今回の旅行は、五年後に開催予定の東京オリンピックを控え、日々変貌を続ける首都東京に息づく明治、大正、昭和の経済成長期の足跡をたどると共に、本年は秩父宮妃勢津子殿下が薨去あそばされてお二十年の節目にあたることから雍人親王殿下が御療養に際してお



鶴岡八幡宮にて



建長寺にて

二人ですごされた湘南の地をたずねるという内容です。先ず最初に訪れたのは旧古河庭園で、続いて清澄庭園に伺いました。両庭園とも東京都指定名勝です。後世に残すべき貴重な財産として位置づけられ、現存する近代の庭園の中でも極めて良好に保存されている数少ない事例であるとのことです。

明治からの伝統的な手法と近代的な技術の融和に心和む時間を過ごし、その後銀座を巡りつつ竹芝桟橋にてクルーズ船に乗船しました。東京湾から夕景、その後は東京タワーより夜景を堪能しました。依然として開発が進む首都東京の昼夜のパノラマに圧倒されながら

氏子青年会報

当社氏子青年会は、夏も間近に感じられた五月三十一日、「親子で登る武甲山登拝」を、埼玉県神社庁秩父支部協賛で実施いたしました。

毎秋に予定をされるこの事業は、昨年は台風の影響を受け中止となつた経緯を考慮し、本年は山の緑が力強さを増す時期での開催となりました。当日は天候にも恵まれ、五歳の幼稚から大人まで総勢五十一名が参加しました。



登山道に咲く花々を愛で、野鳥の囀りや小滝から湧く力水に鼓舞されながらの登頂となりました。翌日は古都鎌倉へ向かい、鶴岡八幡宮を参拝しました。続いて建長寺にて職員の方々より懇切丁寧な御講話を頂きました。神と禅の両輪を鎌倉幕府の精神的支柱に定めた当時の武家の棟梁の功績は、八百年をこえる伝統として今世に受け継がれている感を覚えました。

午後には射るような日差しのか、時折吹きぬける心地よい潮風を受けつつ江の島を散策しました。かつては鵠沼の地にて在りし日々を過ごされた秩父宮両殿下のお姿を、湘南に広がる澄みきつた青空に思い描いた次第であります。

山頂に鎮座します御嶽神社の御神前に更なる道中の安全を祈願し、全員無事での下山となりました。登山道に咲く花々を愛で、野鳥の囀りや小滝から湧く力水に鼓舞されながらの登頂となりました。翌日は古都鎌倉へ向かい、鶴岡八幡宮を参拝しました。続いて建長寺にて職員の方々より懇切丁寧な御講話を頂きました。神と禅の両輪を鎌倉幕府の精神的支柱に定めた当時の武家の棟梁の功績は、八百年をこえる伝統として今世に受け継がれている感を覚えました。

午後には射るような日差しのか、時折吹きぬける心地よい潮風を受けつつ江の島を散策しました。かつては鵠沼の地にて在りし日々を過ごされた秩父宮両殿下のお姿を、湘南に広がる澄みきつた青空に思い描いた次第であります。

山頂に鎮座します御嶽神社の御神前に更なる道中の安全を祈願し、全員無事での下山となりました。登山道に咲く花々を愛で、野鳥の囀りや小滝から湧く力水に鼓舞されながらの登頂となりました。翌日は古都鎌倉へ向かい、鶴岡八幡宮を参拝しました。続いて建長寺にて職員の方々より懇切丁寧な御講話を頂きました。神と禅の両輪を鎌倉幕府の精神的支柱に定めた当時の武家の棟梁の功績は、八百年をこえる伝統として今世に受け継がれている感を覚えました。

府職員から聞かされて啞然とした、という始末でしたので、息子の私からすれば、本人の全く与り知らぬ内に父親が企てたクーデターだと申し上げた次第でした。

またこのご奉告のなかで、たまたま昭和天皇の御大葬が斎行された二月二十四日前後には英國に滞在しており、現地の新聞やテレビ報道などが盛んに御大葬をニュースに採り上げていたことを申し上げますと、さすがはロンドンにお生まれで当時は皇室きつての外交通の大変に興味を示されました。マスコミを通した反響をお伝えしたものでした。

なかでも御大葬に英國王室を代表してエジンバラ公フィリップ王配殿下が参列されることのはずをめぐつて、未だに昭和天皇の戦争責任にこだわる世評からの批判があり、とりわけ東南アジア



昭和31年9月7日 二度目

【表紙和歌解説】

大君の命畏み

眞子が手離り 愛しけ

右の一首は、助丁秩父郡の大伴部少歳のなり。

『萬葉集』卷第二十

古代日本が世界に誇るべき国民的歌集『萬葉集』の最終巻には、当時代の大陸勢力の侵攻に備えて北九州を防衛する兵力として「防人」と称する青壯年の男子が遠く坂東の各地からも徵集されたが、彼らが出征する際に詠んだ「防人の歌」が数多く採録されている。右の歌も当地から出役した「少歳」と名乗る男性の詠歌。「天皇の御命令を慎み受け愛する妻の手を離れ山路の村落を辿りつつ任地に赴く」感慨を詠つたもので、古代律令制の国家と秩父地方との結びつきを想わしめる一首である。

大東亜戦争終結七十周年を迎えて、戦没兵士の出征とも想いを重ねるものがある。

【表紙絵解説】

今回の表紙絵画は、秩父市在住の洋画家で当社「ははそのもり」美術展同人である名取二郎様の作品を掲載させて頂きました。名取様は、浅見嘉正先生に師事し、埼玉県展・一水会展・日展等に46年間作品を発表しておりました。この度の作品は、古いスケッチをもとに制作され、今は見ることが叶わない自然林の中に潜む小さな沼と草原を前景とした武甲山です。秩父人の心の拠り所としての『美しい自然の中の武甲山』が表現された素晴らしい作品です。

現在は、武甲山の見える範囲内で作品を発表し、静かに絵を楽しみながら活動しております。益々のご活躍をお祈り致します。

こうして今から思いますが、妃殿下の暖かい思いやりのお心と巧みなお聞き上手のお蔭で私の緊張を解きほぐして下さり、思わず身勝手な放談を申し上げる仕儀と相なつたわけですが、當人にとりましては望外の楽しい一時の想い出を頂戴したことと、改めて勢津子妃殿下のご遺徳に感謝申し上げる次第であります。

無縁な人たちであつたことをお伝えしました。

イリップ殿下が諸外国の王族や大統領たちに交じつてご靈前に拝礼された者がけしからん、といつた論評まで散見しましたが、当の私自身が接した学者たちや知人たちは至つて冷静に受け止めおり、いわゆる大衆的な扇動とは無縁な人たちであつたことをお伝えしました。

ふくろう
梟だより

◆包丁塚除幕式



当社の御鎮座二一〇〇年を記念して、四條流の方々が中心となり5月23日に包丁塚が建てられました。四條流は平安時代に始まつたとされる大変歴史のある日本料理の流派で、当社では毎年3月に包丁儀式が奉納されております。



職人の方々の技術の上達と継承、そして食材に対する感謝の気持ちが込められた盛に大よろしくありました。

◆秩父郡市神社関係者研修旅行
本年は、大東亜戦争終結70年の節目にあたり、「埼玉県護國神社と靖國神社参拝の旅」が企画され、6月10日・11日の行程で、秩父のものと、研修旅行が実施されました。

先ず、さいたま市大宮区玉縣護國神社に正式参拝致しました。特別に用意して頂いた白石に参加者は思い思ひの願いを込めて石を入れ、そして御垣内にその白筆を入れ、そして御垣内にその白石を供えさせて頂きました。次に、東京都千代田区九段鎮座の靖國神社へと向かい、參集殿にて徳川宮司様よりご挨拶を頂戴した後、正式参拝へと進みました。昼食後は、幕末維新から大東亜戦争に至る戦没者、国事殉難者である御祭神ゆかりの資料を展示する「遅就館」を見学させて頂きました。翌十一日には、静岡県熱海市鎮座の來宮神社を参拝。境内の天然記念物・樹齢二千年の「大楠」を目の前に、参加者全てが生命力あふれる御神木のパワーを頂いた様子でした。感謝を申し上げると共に、英靈に



戦争終結70年後の今日、平和で豊かなこの日本の姿を改めて再認識する機会を与えて頂いた貴重な研修となりました。

◆奉納報告

◎株宮前金物 賽銭箱銅彫金
◎コットンクラブ 本橋周治 奉祝祭備品一式

以上の方々より奉納頂きましたので御報告致します。

◆秩父神社妙見講

自 平成二十七年 二月
至 平成二十七年 六月

一月十四日 拝城講

二月十五日 坂戸妙見講

三月二十日 小川直志講元外五十六名

四月九日 宮側講

五月九日 原谷講

六月七日 中西貞夫講元外五百十七名

五月十日 近戸講

六月七日 別所講

原島光次講元外九十名

六月二十日 日野田妙見講

深田章藏講元外百七十七名

六月二十日 本町講 稲葉富司講元外百十四名
六月二十一日 中宮地講 高畠芳久講元外百九十名
六月二十二日 幸手妙見講 大野昭二講元外二百五名
六月二十八日 下郷講 高浜彰男講元外三十五名
六月二十九日 浅見佳久講元外三百九十六名

本年より下郷講浅見佳久様が新に講元に就任されました。どうぞ宜しくお願い致します。
◆柞乃杜神前結婚式報告

◆職員辞令

権利宣甲田豊治 神職身分二級昇級
(四月一日付)

未永幸せなづ家庭をお築き戴きますより
お祈り致します。
小林正文・友里様

一一〇〇年奉祝事業報告

権宮司 蘭田 建

三月十五日、御旅所解体清祓いの神事が、宮司及び工事関係者参列の下厳粛に斎行されました。

亀の子石と土台石は文化十二年（一八一五年）から二〇〇年の長い責務を終えて慎重に外され、五月の初旬より基壇の本格的な解体作業が行われました。この前段で亀の子石の向きを精密な測量機（光波並びにトランシット）で測つてみると正確に南北を示し北は秩父神社、南は武甲山の大蛇窪となり、現場にいた一同は先人たちの知恵にはつくづく驚かされました。

うな事もうな事もあり五月十一日に発掘調査が行われました。これは秩父市教育委員会による古代信仰の手がかりであります。特筆する収穫は無く、埋戻され整地されました。



奉納祭大典神安祭祭儀行



お正月様・切祓料改定

此の度、平成二十七年四月より幣束、お祓い、八丁〆等切祓料を改定しましたので報尚、年末にお正月様を地区

子石は、平成の亀の子石彫成（復彫）の為して茨城県眞壁の彫刻師佐藤寛齋先生の御自宅に預けられ、作業完了後は秩父までは秩父に

本年二十五周年を迎え、此れを記念して金参拾萬円のご奉納がありましたのでご報告致します。

奉納報告

平成三年に結成された下郷講が、本年二十五周年を迎え、此れを記念して金参拾萬円のご奉納がありましたのでご報告致します。

■屋台囃子と子供達の元気なかけ声が町内に響きわたり、悪疫退散を祈る川瀬夏祭りを迎え、「ここに社報柞乃杜第51号をお届け致します。」

■此の度の、神社解説でも紹介された当社と養蚕・絹文化に関連して、毎年十一月二十二日には御神前に「奉牛・織姫」の御神像を供えられ、秩父織物協同組合参列の下「機業組



お宮と親子の集い参加者募集

夏のひとときを、神社の杜で過ごしませんか。大勢のちびっ子達の参加お待ちしております。

◎ 8月2日(日)会場 小鹿神社
(工作・神話紙芝居など)
◎ 9月27日(日)会場 宝登山神社
(奥宮登拝)

※お問い合わせ、秩父神社甲田権補宜、又は会場神社にお問い合わせ下さい。

編集後記



※本報の用紙は再生マット紙を使用しています。

平成二十七年(2015)七月二十日
発行編集 権宮司
〒三六一〇〇一 埼玉県秩父市番場町一-一
TEL (049) 231-0262
FAX (049) 241-5596
印刷所 有限会社 拡文社
〒三六一〇〇三 秩父市東町二七一八